

農業委員会 だより

発行:新島村農業委員会

編集:新島村農業委員会広報部会

〔今期担当:天野律子、岩永和徳
宮川勉〕

農業委員会事務局(役場内)

5-0284(直通)

農地をお持ちの方へ

農地をお持ちで、耕作されていない方へお願いです。

畑は、生活の基盤(食料)となる貴重な財産であることから「**農地法**」で守られています。個人の財産でありながらも、国民の食文化を守るために様々な制限があります。

そのため、利用せず荒廃農地となっている農地は、効率的に利用したいと考えている農家や、自給的耕作者の方へ積極的に貸し出し下さいますようお願いいたします。

また、内地では、農地をお持ちの方が農地を開墾し貸し出されますが、島では耕作する方が、開墾から行っています。財産である農地を貸して下さる所有者の方の気持ちは重々承知の上で、荒廃し、ジャングルのようになつてしまった農地を、多大な費

用を掛けキレイにし、管理して下さる耕作者の方へのご理解も併せてお願いしたいと思います。皆様のご協力とご理解をお願いします。



専門農家の方に限らず、たくさんの方が、新島の畑を耕作されています。畑を大事に使っていただき、農業委員会としてはとても有り難いのですが、畑は、「**農地法**」で守られており、貸借する際には契約が必要です。

法律上の問題だけでなく、口頭での貸し借りは、多くのトラブルを招くため、当委員会にもたくさんのご相談が寄せられております。

お手続きは難しくないので、契約を結ばれていない場合は、**新島村農業委員会(5,0284)**までお問い合わせください。

ストップ遊休農地再生 事業による農地整備

農地貸借の契約を結び、整備が行われた大原の農地のご紹介。左の写真は、今年、島ラッキョウを栽培し、収穫を終えた後の畑です。奥の方は、今年、伐採・抜根された農地で、徐々に規模を拡大しているとのこと。来年は生産量の増加が見込めます。

島内、島外問わず長年愛されている、おいしい島ラッキョウ楽しみですね。(岩永和徳)



大原のラッキョウ畑 (H30.5.1)
(石野正幸さん)

明日葉のハウス育苗

明日葉栽培を始めて丸5年、リスクの多い直播き栽培を一切やめ、普及員の先生の指導の元、昨年から少しずつ試していた育苗、移植による栽培方法を進めることにしました。確実な芽出しと収穫量の確保、労働力の軽減が目的です。

昨年十二月末、ハウスの一部をお借りして育苗トレーを利用し、約2反(2千㎡)分の苗の育成から始めました。



元々、発芽までに最低二十日を必要とし、遅いものは四十日もの日数がかかる明日葉。その間は乾燥が一番の敵ですが、逆に水浸しの状態もカビの蔓延などで

種が腐ってしまうため、程よい水分量を保つことが大切になってきます。発芽に適した温度、日長時間はもちろんのこと、採種した時の天候や種の成熟度にもよる、発芽率は大きく左右されます。



今年は無事発芽(昨年、露地撒きは全滅!)。発芽確認後はたっぷり灌水...と思いきや、小さな双葉が出揃った頃から苗がバタバタと倒れはじめました。加水による根腐れと思われたので慌てて水を切り、若干乾燥気味に育てることが良いと判断、その後は落ち着きました。

ハウス内は温度がかなり上がるので、蒸れを防ぐため換気も必要。幼い苗はとも弱く、その姿からあの太くがっしりした明日葉を想像出来ないほどです。

そこら中に生えていると思われるがちな明日葉。道端で過酷な環境(霜、大雨、日照、強風、害虫)に耐え生き残っているのは本当に凄いこと。多くの種を実らせる理由も、そこにあるのだと思います。

明日葉を摘み取る際は、次の新芽が出てくる茎の下の部分を残し、更に外葉2枚を残した状態で摘むことをお勧めします。1つの株から、できるだけ長く摘み取る一番の方法です。(大野律子)

シカの樂園「宮塚山」

現在、宮塚山のテレビ塔南側は、シカの足跡などの痕跡がたくさんあり、相当数のシカが生息しています。



足跡 (宮塚山)

テレビ塔北側山奥に罠を仕掛けてあるため、南側に移動したと思われる。



斜面を登る足跡 (獣道)

昔は道路や畑の中でも頻繁に見かけたシカですが、罠捕獲の成果もあり、今は山奥に逃げ込み、罠を仕掛ける場所も徐々に難しい場所へと移ってきました。

今後は、テレビ塔の南側も含め、山奥にももっと罠を設置することで捕獲力を強化し、引き続きシカの根絶に向け努力していきたいと思えます。

シカに関する情報はどんなに小さいことでも有力です。些細なことでも構わないので、パトロール中の**有害鳥獣防除員**にお声掛けいただき、新島村役場の**産業観光課農林係(5,0284)**までご連絡下さい。(宮川勉)